

旅・海外

望郷 (2015. 12. 1 仙台より F.Y.)

遊歩道を進むとあらゆる場所から温泉がゴボゴボと噴き出し、生命の危険…とは大袈裟ですが、ちょっぴりスリルも味わいながら、大地のエネルギーを体感しつつ散策。仙台から車で2時間ほどの宮城県北西部にある鳴子温泉郷。その1つ、鬼首(オニコウベ)温泉に、高さ15メートルまで吹き上がる間欠泉と、この地獄谷があります。100度近い温泉がある程度の間隔で吹き出しそのまま川へと流れ込むため、場所によっては湯加減が最適な露天風呂になっているところもあり、涼しげな溪流に手を入れた瞬間の視覚と触覚のギャップにもまた驚かされます。鳴子温泉で生まれ育った私ですが、故郷を離れて20余年。実は今回、はじめて地獄谷を訪れました。実家が既に鳴子を離れていることもあり、久々に感じる硫黄の匂いや、見慣れているはずの鳴子こけしは、子供の頃とはまた違う、不思議な温かさのようなものも感じました。何気に、気まぐれな故郷への旅。きっと、なんとも言いようのない、素敵な時間が待っていると思います。そして、こんな不思議な感覚を味わえるのは、大人だけの特権かもしれません。(写真は、こけし職人となった先輩のお店)



高野山の空気 (2015. 6. 25 堺より K.H.)

世界遺産、聖地、高野山。皆さんはどんなイメージをお持ちでしょうか? ぱりぱりの浪速っ子の私ですが高野山には縁がなく、26歳にして初めて訪れることになりました。高野山到着後は、奥ノ院へ向かいました。ここは高野山最大の聖地と言われており、弘法大師が今も入定し修行を続けているとされる場所で、2kmの参道から徒歩で参拝します。両側に高い杉木立、無数にある苔むした石塔、まっすぐ続く参道。昼間でも薄暗く、冷たい空気。ここには武田信玄、織田信長等有名な武将たちのお墓があることで有名ですが、私はむしろ名もないたくさんの石塔に込められた祈りの気持ちに圧倒されていました。脇道に入ると戻って来られなくなる気がして、ただただまっすぐ奥ノ院を目指しました。弘法大師のおられる御廟で手を合わせ参拝を終えると、帰り道はととてもすがすがしい気持ちになりました。普段とは違う世界にどっぷり漬かれるよう、ぜひ宿坊に泊しての滞在をおすすめします。(写真) 奥ノ院参道の入り口。ここから先は写真を撮るような気になれなかったので貴重な一枚。



旅の話 (2015. 3. 11 姫路より Y.S.)

「旅」への憧れは、「何」がやってくるかわからないこと、でも所詮、出会った「何」かは「私」の鏡像であるので少し興奮めですが、まあ自分との出会いへの憧れと言っておきましょう。しかし旅の前提は「帰る処がある」ということに、何かしら後ろめたさを感じてしまいます。そんな「たび」での出会いを2、3ご披露したいと思います。加守田章二さんと初めてお会いしたのは、1966年秋、私が高校2年生の秋、当時住んでいた栃木県宇都宮市から約25kmのところにある益子共販センターでした。正しくは加守田さんの「須恵器風灰釉花瓶」との出会いで、その足で、お宅を訪ねました。加守田さんは不在でしたが、「主人は、窯出しのとき、みんな壊してしまうのですよ」との奥様のことが、縁側に転がっていた、みかんの一枝の鮮やかさと共に甦ります。大学に入学した春に訪問すると、「今、個展を開いている」とのことでしたので、東京日本橋のデパートを訪れました。その時、「高村光太郎賞」を陶芸家として初めて受賞されたことを知りました。その後大学を卒業した春、益子のご自宅を訪問すると、蓄えていたトレードマークの髭がなくなっており、それまでとは違ったものを感じました。ヨーロッパに行ってきたこと、遠野に窯を築いて仕事をして

いること、個展を開いていることなど、伺いました。南青山のギャラリーに足を運んだところ、まるで生まれ変わったような、想像をはるかに超えた作品群が並んでいるではありませんか。私は絶句しました。そのころの「加守田章二作陶展」のパンフレットに以下のような言葉が残されています。「科学文明の急進が、世界を狭くし、色々の文化が、入り乱れても、日本人は、あくまでも日本人である。自己を見つめる時は、やはり日本人としての自分を見つめ、それが世界の中の自己を見つめることになる。自分個人の世界の中で、陶芸を使って日本人の源を発掘することが、私の仕事である。自分の外に無限の宇宙を見る様に、自分の中にも無限の宇宙がある。この両宇宙への、調和のとれた集注が、行動力の本質である。加守田章二」それから約 10 年後、群馬大学に赴任すると、奥様のご実家が大学のすぐそばで、小さいころの遊び場が工学部キャンパス（旧桐生高等染織学校）であったことを知りましたが、東北大金研大阪センター（現：関西センター大阪オフィス、大阪府立大学内）に赴任すると、今度は加守田さんの生家のある岸和田に近いことにも驚きました。高校時代に出会った一つの花瓶から現在の私に道は続いており、49 歳の若さで夭折した加守田さんは私の道標となりました。その後の旅でも様々な出会いがありました。1975 年のインドへの 1 か月の旅では、ベナレスやラジギールでそれまで気づかなかった自分との出会いがあり、また美術館や博物館でも多くの出会いがありました。とくに京都国立博物館で出会った蘇我蕭白の「寒山拾得図」（興聖寺蔵）は心の風景になりました。はじめに、「帰る処がある」のが「旅」であるといいましたが、実は鎧を脱いで自分が帰る処を探すことが、「旅」そのものであったのかもしれない。

R367 ドライブ (2015. 1. 20 堺より R. I.)

月に一回のペースで堺と北陸を往復してもう四年。ざっと 40 往復で距離にして延べ約 26, 000km。経路は、阪和道・近畿道・第二京阪・京滋バイパス・名神・北陸道で、所要約 4 時間。で、いろいろなことが付き物なのが車での移動。京滋バイパスが冠水で通行止めの日。名神と R161 を避けて阪神高速京都線から京都市内を経て R367（通称「鯖街道」）へ。この道は普段でも交通量が少なく信号もほとんどない。おかげで予定した時間内に到着できた。ところが、交通量の少ない一般道なので情報が少ないので、行ってみて通行止めってことも。冬のある日の夕方、帰りの北陸道が雪で通行止めになり、武生 IC から R8 へ。車体をたたく融雪シャワーを抜け、ドロドロになりながら R161 へ。単調な R161 に業を煮やし、眠気覚ましも兼ねて向かった R367 は雪で通行止め。ああ、やっぱり！この道は照明がほとんどないので夜間走行は慣れていないとつらいかも。しかし、木立を抜け、溪流沿いを走り、古い集落を抜けるいいドライブコースです。「天気の良い昼間」がお勧めです。



雪の高速道 (2014. 12. 24 堺より R. I.)

降雪時の高速道路は常に危険が伴う。路面の雪でスリップに注意するのは当然だが、昼間の走行は雪が目にはチラチラして前が見にくく、積雪に反射する光も邪魔である。サングラスは必需品。夜間の走行はもっと危険なのだが、雪降る中の夜間走行はなぜかお気に入り。照明の少ない雪の高速道。ヘッドライトの光の中を舞い落ちる雪、フロントガラスを駆け上がっていく雪、ところどころにある強い照明に照らされ、ときどき向きを変える風にあおられながら、闇の中を深く落ちてくる遠くの雪・・・。自車のエンジン音とノイズ混じりのカーラジオの音だけが聞こえるシンとした闇の中。車体を通して伝わる雪の温度を感じながら、雪と光が作り出す光景が好きである。と、追い越し車線をカッ飛んでいくクルマ。オオ！



瀬戸大橋への憧れ (2014. 12. 10 香川県与島 PAにて Y.F.)

瀬戸大橋と聞いて思い浮かぶのは、小学生の頃に使用した社会科の教科書でした。私の出身は、現在の姫路からは遠く離れた(さらに山が身近な)群馬県なので、まだ小さかった自分にとって海を跨ぐ橋をうまく想像できなかったことが、この連想を強くしたのかもしれませんが。そのため、実際に見てみたいとささやかな憧れを抱いておりました。そして、先日、知人が関西に遊びに来た折、兵庫県から岡山県～香川県～淡路島のドライブに出かけることに。岡山市内から瀬戸内海方面へ向かう車中、教科書の表紙を何度も思い浮かべながら、高揚感と共にいよいよ瀬戸大橋へ。与島のパーキングエリアに車を止め、その姿をまじまじと眺めてみると、材料力学では梁のたわみがどうのこうのと考えることすら忘れてしまうほどの迫力でした。壮大な人工建造物に感動を覚えつつ、橋を渡りながら人間の知力とそれを実現する力は偉大だなど思いを巡らしていると、あっという間に四国に辿り着きます。少し寂しくもありますが、香川では好物の讃岐うどんが待っていますので、とても美味しく頂きました。少しずれましたが、こうした幼少期に心許無くとも想像したものを、今になって実際に見てみるという経験は、これから先を創造する糧になってくれるだろうと期待しています。



ハイキング (2014. 11. 4 仙台より M.T.)

ここ仙台の良いところ、適度に都会でありながら、ちょっと足を伸ばせば、海に山と自然にあふれているところ。というわけで、先日は軽登山へ。ここ関西センター仙台オフィスからも車で20分ほどの場所にある月山池/サイカチ沼周辺は、運がよければカモシカやリス、ノウサギにそしてクマにも…! 出会えるそうです。今回は女寄れば何とやらのためか(?) 残念ながら、でしたが、たくさんのフィールドサインを見ることができました。たとえばたくさん落ちていたホウノキの葉。あたりをよよく見ると、葉先だけ、左右対称にちぎれているものがちらほら。なぜこんなに同じ形にちぎれた葉が何枚も落ちているのかというと、ムササビが葉を握り、半分に折れた状態でかじるからなんだとか。それからわさわさと丸まって落ちている杉の葉。これは木から落ちてしまったリスの巣。それに、木の幹についた(これは想像つきますね) 新しい何かの爪痕。カモシカの食べのだという、バキバキと折れた枝木。ひとりで、あるいは友人とだけで来たのなら、何気なく見過ごしてしまったであろう動物たちの残した痕跡。今回は縁あって、この場所を歩いて50年という方にガイドをしていただき、たくさんの興味深いお話を聞くことができました。動物好きな方なら、冬のほうが面白いのだとか。アニマルトラッキングをしに、ぜひまた訪れてみたいものです。(写真: 登山道のスタートから、サイカチ沼を望んで)



信仰深い弥山 in 宮島 (2014. 7. 25 堺より M.W.)

7月19日からの3連休を利用し、広島県宮島へ観光に行ってきました。宮島は厳島神社で有名ですが、その奥にある弥山も信仰の対象として崇められています。弥山は、標高約530M、山頂には由緒ある神社や奇岩怪石群があり、見所あふれる山です。ロープウェイで片道約20分、そして40分程度歩くと、頂上です。私たちは、残念ながらロープウェイが止まっていたため、大聖院コースを歩いて登ることにしました。高さが530Mほどなので、簡単に登れるかと思いきや、海拔0Mから歩いて登るのはなかなかハード。途中の自然と景色を楽しみながら、休みながら登りました。弥山本堂に到着すると頂上まではあと少し。くぐり岩を抜けると頂上です。山頂からは瀬戸内の海や島々、遠くに中国地方の山並み、街並みが青い空に映え、とてもきれいな景色です。自然と史跡がおりなすステキな景色を体にかけて、疲れを癒やしました。宮島に行かれる際には、弥山にも足をのばされることをお勧めします。



鈍行列車の旅はいかが？～遠回り連続乗車券、鈍行の旅～ (2014. 6. 19 堺より J.Y.)

横浜に行く用事があり久々に遠回り連続乗車券で途中、鈍行列車の旅をしようと考えた。大阪市内から東海道本線で名古屋駅へ。そこから岐阜県、長野県、山梨県を通過し東京市内へ行き、新幹線で大阪に帰るというコース設定だ。このコースは始発の名古屋駅から終着の東京駅までの中央本線を完全制覇することができる。大阪市内から新幹線と特急しなのを乗継ぎ塩尻駅へ。さて、いよいよここ塩尻駅から東京駅までのんびりと約5時間をかけて走る列車の旅が始まる。なんといっても鈍行列車。車窓の景色を眺めながら、特に何も考えることもなくゆっくりと過ごせる時間が非常に心地良く癒しになるのである。途中、富士見駅から小淵沢駅に向かう列車の中からは富士山を拝むことができ感動。そして体感。各駅で列車が止まりゆっくりと扉が開く。大阪のように乗り降りする人はほとんどいない。雑音はほとんどなく自然体。心地良い爽やかな風、鳥のさえずり、プラットホームに無造作に咲く花の香り、そしてその地域で生活をしている人との出会い。この空間は本当に穏やかで優しい。日頃の生活から離れ、こうして過ごす時間は私に生きる元気を与えてくれる至福のひとつときなのである。そんな幸せな時間も過ぎ、終着の東京駅へ到着。現実の忙しい生活へと戻る。



オランダってどんな国 (2014. 4. 2 仙台より G.M.)

2013年の夏から9か月、オランダに滞在してきました。皆さんはオランダといえば何を思い浮かべるでしょうか？チューリップや、ゴータで有名なチーズ、風車や最近ではミッフィーちゃんかもしれませんね。実際に住んでみて感じたことは二つあります。(1) のっぺの国。町を歩きかう人が本当に大きいのにびっくりします。それもそのはず、オランダ人の平均身長は男性が180cm、女性でも170cmあり、世界一です。私も日本では背が低い方ではないですが、服を買いに行くとそんな小さなサイズは扱っていないと言われ、いくつかお店を回って体に合う服を探した挙句、袖が長すぎてつめる羽目になりました。アパート玄関ののぞき窓も日本人女性には台がないと届かない有様。”食を楽しむために稼ぐ”南ヨーロッパに対して、オランダ人は”働くエネルギーを得るためだけに食べる”らしく粗食です。パンにチーズを挟んだだけのサンドイッチとミルクというランチが定番。なぜそれでそんなに背が伸びるのか不思議ですね。



(2) 水との戦い”世界は神が作ったが、オランダはオランダ人が作った”といわれるように、オランダは国土の1/4が海面より下にあって、干拓しながら国土を作ってきたのです。その名残が水をくみ上げるための風車と、町を縦横に走る運河です(写真)。運河にかかる橋の下を船が通るためのはね橋も結構見られます。オランダで遅刻をした時に一番多い言い訳が、”跳ね橋が上がって通れませんでした”だとか。その運河も、冬の寒い日には凍ってそのうえでスケートができるらしいです。オランダには凍った運河を滑ってオランダ北部の11都市を周る、エルフステーデントフトという伝統レースがあります。実は、渡蘭する際に、このレースを題材とした絵本をプレゼントされていたので、このレースを観戦したり、運河スケートをしたかったのですが、最近は温暖化で凍り付く運河を見る機会も少ないのだそうです。こんなところにも温暖化の影響が出てしまうのですね。

写真：アパートの前の運河(オランダ デルフトにて)

美しい国 ドイツ (2014. 1. 20 堺より S.S.)

2007年の一年間、ドイツに滞在しました。ドイツのいろいろな街を訪れては感心したのは、どこに行ってもゴミがほとんど落ちていないことです(写真左)。理由の一つにはゴミが出にくいシステムが進んでいることが挙げられます。例えば、ビール瓶やペットボトル。



ドイツではビールは瓶で、その他飲料水は主にペットボトルで流通しています。アルミ缶はあまり見かけません。瓶やペットボトルにはデポジット制度が適応されています。つまり、購入時には一本 10~50 円を容器代として余分に支払いますが、容器を返却すると容器代が返ってきます。そのため容器はほぼ完全回収！ちなみに容器は洗浄して再利用されます。お陰で街にはゴミがないし、エコでもある。日本も真似すべき合理的なシステムです。街も綺麗でしたが、出会う人も素朴で気持ちの良い人ばかりでした。ドイツ人は基本的に陽気でビール好き！自分の国が大好きです(写真右)。ビールを飲みながら国歌を口ずさむ彼らが印象的でした。一方でドイツの習慣として驚いたのが、夜は電灯を煌々とはつけないことです。なるべく照明を落として、ろうそくの火の明かりで過ごします。でも決して根暗なわけでないです！慣れれば火明かりで十分なのです。それにエコでもあるし。環境にやさしいシステムや習慣が自然と根付いていて、何より自国に強い関心と誇りをもっていることが美しい国ドイツの源流だと感じました。

(写真左) 金融都市フランクフルトの中心地。大都会であるにも関わらず空は澄んで、街にはゴミ一つ落ちてない。

(写真右) ミュンヘンでのビアフェスタにて。1リットルの大ジョッキを飲みながら、楽しく話をしてくれた陽気なドイツ人の方々。

関西国際空港 (2014. 1. 10 関空で想う K.A.)

関西センターで勤務していると、「東北のご出身ですか？」と聞かれることが多く、センターの教職員は東北出身と思われているようです。実は、宮城出身のセンターの教職員は少なく、出身地は全国に散らばっています。そのため、年末年始の帰省では長旅になる人が少なくありません。私もその一人で、10年前は一泊一日で寝台電車や船で帰省をしたこともあります。この頃はもっぱら飛行機を利用しています。飛行機に乗るには、まず空港へ行くこととなりますが、ローコストキャリア (LCC) による移動の場合は、関西国際空港 (関空) から乗ることとなります。関空は LCC 就航社数が国内第一位。国内だけでも 9 路線が就航しています。日本で LCC が就航したのは 2007 年で関空が最初です。国内線の LCC が就航したのは 2012 年で、同年には写真の関空第二ターミナル (T2) が LCC 専用ターミナルとして開設されています。いずれの年も大阪センター (関西センターの前身) および関西センターが開設した翌年です。関西では LCC 利用率が高く、身近な交通機関として LCC が浸透しているようですが、国内の LCC の歴史と何か通ずるものがある関西センターは「ものづくり企業」の身近な支援機関としてその役目を果たしているのでしょうか。「まだまだや！」とお叱りが画面を通して聞こえてきそうです。LCC が努力を重ねているように、我々も鋭意努力して参りますので、今後とも関西センターをよろしくお願い致します。ところで、私は空港で搭乗を待っていると、他の出発便が気になり、ふらっと旅に出たくなります。国内線と国際線が同居している T2 では「お昼は肉なんか食わず、着いてからビールにジングスカン。いやいや、帰省せずに泡盛飲んで、その後飛んでサムゲタン・・・」という滅茶苦茶な妄想を抱いてしまいました。こんな妄想を抱くのは私だけでしょうか？



関西では LCC 利用率が高く、身近な交通機関として LCC が浸透しているようですが、国内の LCC の歴史と何か通ずるものがある関西センターは「ものづくり企業」の身近な支援機関としてその役目を果たしているのでしょうか。「まだまだや！」とお叱りが画面を通して聞こえてきそうです。LCC が努力を重ねているように、我々も鋭意努力して参りますので、今後とも関西センターをよろしくお願い致します。ところで、私は空港で搭乗を待っていると、他の出発便が気になり、ふらっと旅に出たくなります。国内線と国際線が同居している T2 では「お昼は肉なんか食わず、着いてからビールにジングスカン。いやいや、帰省せずに泡盛飲んで、その後飛んでサムゲタン・・・」という滅茶苦茶な妄想を抱いてしまいました。こんな妄想を抱くのは私だけでしょうか？

ローカル線の旅 (2013. 11. 20 福島県南会津郡只見町にて Y.K.)

出張で月に一回は新幹線に乗っているが、ほとんどの場合はせわしない日帰り出張であり、行き帰りも味気ない。旅好きなので、年に数回、のんびりした旅をするが、新幹線よりローカル線の方が味わいがある。車でのドライブも好きではあるが、運転するのがめんどくさい時や、酒が飲みたいのに飲めないこともあって鉄道を使うことが多い。とくにローカル線で景色を見ながらゆっくり旅をするのが一番好きである。数年前、只見線で旅をしたことがある。只見線は、福島県会津若松市の会津若松駅から新潟県魚沼市の小出駅までを結ぶローカル線であるが、私が乗ったのは、会津若松駅から只見駅の間で、只見駅付近の小さな民宿に泊まった。季節は秋であったがとても景色が美しかったことが印象に残っている。残念なことに、平成 23 年 7 月の豪雨の影響により、3ヶ所



の橋が流失するなど甚大な被害を受け、現在も会津川口～只見駅間が不通となっている。早く復旧して欲しいものである。そしてもう一度只見線でのんびりした旅を楽しみたい。

兵庫県ノルウェーの森 (2013. 11. 11 兵庫県神埼郡にて M.Y.)

すっかり秋めいてきましたが、台風シーズンが長引き観光気分が盛り上がりません。しかし、確実に秋はやってきているのです。ススキが綺麗な兵庫県中播磨地域に位置する神埼郡神河町の砥峰高原をご紹介します。「ノルウェーの森」「平清盛」のロケ地として、他府県からも観光客が訪れるほど有名な高原です。山頂一面すすきの高原となっており、10月にススキ祭りが開催されるなど、地域活性にも一役を担っています。天気の良い日、夕方になると高原一面が夕日に照らされ銀色に波打つ景色は、心打たれる絶景となります。平成18年度より実施された兵庫県県民交流広場事業により砥峰高原山頂には地場産の蕎麦を活かした「交流庵」が地域住民により運営されており、美味しいお蕎麦を頂くことができます。播磨地方にお越しの折は、砥峰高原へ是非、お立ち寄りください。



Rhodes 島旅行記 (2013. 10. 21 ロードス島にて M.K.)

ロードス島は、ギリシャのエーゲ海に浮かぶ島々のうち南東に位置し、トルコに近く、クレタなどの島に次いで、4番目に大きな島です。ロードス島はまた、世界の7不思議のうちの一つ、太陽神ヘリオスをかたどった高さ50mの巨像で有名です。(私は、観光ガイドの説明で思い起こしましたが。) 実際、旧ロードス港には巨像の足があったとされる場所が残っています。日本からロードス島に向かうには、まずアテネに行き、そこからロードス島への空路をとります。アテネに向かう空路として、中東経由の航空会社を利用すると、アテネに向かう途中とアテネとロードス島間でエーゲ海に浮かぶ島々を楽しむことができます。このロードス島で、これまで8回、2年に一度、ヨーロッパのナノ構造超伝導体の渦糸の研究グループが国際会議を開いており、日本からも数名参加しています。私は3回目の参加になります。この会議は、朝8時半より始まり、夜8時まで講演が続くハードな会議です。ただし、昼には、休憩時間が3時間ほどあり、ホテルのほとんど波のないプライベートビーチで、日光浴や、海水浴を楽しむことになります。いかにもヨーロッパ的なスケジュールで、渦糸物理と戯れるのがこの会議の醍醐味です。



写真説明：朝焼けの中、かすかに見える対岸のトルコ。

日の沈まない国の話 (2012. 9. 20 堺より Y.S.)

ノーベル賞、オーロラ、消費税25%と聞いて思い出す国はどこでしょう？ Skype、H&M、IKEAと言った方がピンとくる人の方が多いかも。ヨーロッパの北の外れ北緯60度に首都をもつこの国は、大阪府とほぼ同じ人口の人が日本の1.3倍の国土に住んでいます。そんな自然豊かな所に住む人たちは、長くて暗い冬を耐え短い夏を思いっきり楽しみます。夏休みを取ると手当が出るので、誰もが長期休暇(数週間)を取りサマーハウスで過ごしたり、南欧の島に出かけ冬分まで太陽を浴びます。夜10時を過ぎても空はまだ宵の口なので、町ではいつまでもスコール(乾杯)！の音が。(北極圏(北緯66.6度)内は白夜になります)。公官庁のスタッフも例外なく長期休暇を取りますから、延長ビザ申請のような我々



(外国人)にとって冗談では済まされないことも、ただただ担当者が夏休みから帰って来るのを待つしかありません。

何ともものんびりとした国ですが、始めにあげたように世界的に知られた事柄も多くあり、満員電車に乗り朝から晩まで働く我々って？と、ブツブツ言いながら手に入れたスゴ泡グラスで冷たいビールを一杯。今日も一日お疲れさまでした。

富山県射水市、海王丸パーク (2012.5.14 富山にて E.M.)

ゴールデンウィークに富山へ。この写真、海の貴婦人海王丸の背後には、雪景色の立山連峰がそびえている。射水市の海王丸パークは、帆船と富山湾と北アルプス立山連峰が同時に望める絶景のスポット。目の前の日本海で釣りをしながら、横目には北アルプス、と実に珍しい風景が広がる。ここに係留されている海王丸は昭和5年から平成元年まで使用された大型練習帆船。

「海の貴婦人」として親しまれたその優美な姿も、戦時中は、帆装を撤去されねずみ色に塗り替えられて、石炭輸送や海外在留邦人の帰還輸送業務に使用されたそう。今はここ海王丸パークのシンボルとして、また歴史海洋博物館として富山湾に浮かんでいる。さて、本日の釣果は小さなゼンメが数匹。

まあいいか。パークではなにやらイベントが開かれ、たいそうな賑わい。整体院のテントで体のゆがみを直してもらった。さて、心のゆがみは？この素晴らしい景色で少しは矯正されたかも。



仙台発:震災復興と八坂神社 (2011.09.06 T.K.)

3月11日の大震災からそろそろ半年経過しようとしています。金研では東北地方を元気にするために『材料科学国際週間2011』を10月11日から開始します。この国際週間によって、少しでもこの地方が活気づけば良いな、と思っています。さて、話は変わりますが夏休みを利用して、学生時代を過ごした京都に遊びに行きました。何年かぶりに母校を見たり、京都は祇園の顔-八坂さんにお参りしたり、先輩、後輩と酒杯を酌み交わし、そして京都のうだるような暑さにも懐かしみを覚えて、極上の時間を過ごすことが出来たのですが、一つ、・・・と言うか非常に気になることがありました。それは、西日本の人々の中では3月11日大震災の記憶が薄らぎつつあるように思えた事です。やっぱり距離的に遠いところなのでどうしようも無いのかな、と思いつつも自分に出来ることは何だろうと考えている今日この頃です。

